鳴門教育大学研究紀要
第25巻　2010

中学校運動部顧問の管理行動に関する研究

―― 競技経験との関連性 ――

藤　田　雅　文*，吉　田　哲　也**

（キーワード：中学校，運動部活動，顧問教員，管理行動，競技経験）

Ⅰ　緒　言

体育・スポーツ指導者が果たすべき役割行動には，集団の成員に対する対人的な指導と管理のみならず，所属する組織内の同僚や上司，外部のヒトに対する働きかけ，運動施設（モノ），予算（カネ），情報の管理なども含まれるため，「リーダーシップ論」よりも金井（1983）[1]，田尾（1984）[2]らが提唱する「管理者行動論」の枠組みで捉えた方が有効である，という考え方に基づいた研究がこれまでに多くなされている。民間の体操教室の指導者（武隈他，1988）[3]，中学校・高校の体育主任（清水，1990）[4]，中学校のサッカー部顧問（藤田他，1992）[5]，小学校・中学校・高校の体育主任（武隈，1994）[6]，水泳のコーチ（清水他，1995）[7]，都道府県競技団体の理事長（武隈，1995）[8]，中学校の女子バスケットボール部顧問（藤田他，2000）[9]，小学校の体育主任（藤田他，2001）[10]，中学校のソフトテニス部顧問（國田他，2008）[11]を対象とした先行研究では，それぞれの管理行動の構造を究明し，管理行動と状況特性，組織有効性との関連性などを明示している。中学校の運動部顧問を対象とした３件の先行研究では，指導しているスポーツ種目の競技経験がない顧問より，競技経験を有する顧問の方が，積極的に管理行動を実践していることが明らかにされている。しかし，これらの結果は，１つの限定されたスポーツ種目の顧問の管理行動に関する結果であり，種目の枠を超えた普遍性は検証されていない。また，競技経験がある顧問と競技経験がない顧問の二者間の差異の分析結果であり，競技経験年数や競技レベルの違いとの関連性については分析されていない。

そこで本研究では，中学校の運動部顧問の管理行動に関して，次の２点について分析・検証することを目的とした。

１）種目に関わらずに，指導しているスポーツ種目の競技経験の有無が，管理行動の規定要因となる。

２）競技経験年数と競技レベルは，管理行動の規定要因となる。

Ⅱ　方　法

１．管理行動

藤田（2000）は，中学校女子バスケットボール部顧問289名の回答を因子分析し，部員育成（13項目），情報管理（９項目），環境形成（８項目），規律維持（５項目），目標管理（５項目），変革主導（４項目），助言依頼（２項目），信頼関係（３項目）の８因子（50項目）を抽出している。本研究では，質問紙調査票のデザイン上の理由から，寄与率の低い助言依頼と信頼関係を除き，因子得点が高く，各因子の行動を的確に表現している項目を選択して，「あてはまらない」から「極めてよくあてはまる」の５段階尺度による，部員育成（６項目），情報管理（６項目），環境形成（５項目），規律維持（５項目），目標管理（５項目），変革主導（３項目）の計30項目からなる管理行動測定尺度を構成した。

２．競技経験

現在指導しているスポーツ種目と競技経験種目が一致している群，不一致群，競技経験のない群の３つの群に区分した。競技経験年数については，中学生，高校生，大学生，社会人のいずれの時期に経験したのかについて設問し，３年未満（中学のみ，高校のみ），３年～６年未満（中学～高校），６年～10年未満（中学と大学，高校

*鳴門教育大学生活・健康系コース（保健体育）
**徳島市立国府中学校

～大学，中学～高校～大学），10年以上（中学～高校～大学～社会人）の４区分で比較した。また，競技レベルについては，中学生から社会人に至るまでの間に，市町村，県，ブロック，全国のどのレベルの大会にプレーヤーとして出場したのかについて設問し，市町村レベル，県レベル，ブロック・全国レベルの３つの群に区分した。

３．統計処理

リッカートの簡便法に従い，５件法で回答された番号を単純に数値得点に振り分け，30項目の管理行動と競技経験との関連性について，ボンフェローニ法による多重比較検定を行った。

４．データ収集

T県下のすべての中学校の運動部顧問を対象とし，郵送による質問紙調査によってデータを収集した。

調査の概要は以下の通りである。

⑴ 対象：T県下92校（800部）の中学校運動部顧問

⑵ 期間：平成20年５月～７月

⑶ 有効回答数（率）：387名（48.4％）

Ⅲ 結果と考察

１．指導種目と競技経験の実態

回答が得られた387名の顧問の指導しているスポーツ種目と競技経験（硬式・準硬式野球は，軟式野球と同種目に分類した）は，以下の表１に示した通りである。全体では，指導種目の競技経験を有する顧問が４割，指導種目と異なる種目の競技経験を有する顧問が５割，競技経験のない顧問が１割という実態であった。

「香川の学校体育」[12]の平成20年度のデータでは，香川県下の中学校運動部の指導者の内，専門指導者が，男子部で31.6％，女子部で29.6％であることを示している。本研究のデータ（39.5％）とともに考えあわせると，中学校の運動部では専門指導者が少ないと言えよう。

表１．指導種目と競技経験

指導種目	同種目の競技経験あり	異種目の競技経験あり	競技経験なし	計
バレーボール	24（ 40.7）	30（ 50.8）	5（ 8.5）	59
ソフトテニス	20（ 33.9）	35（ 59.3）	4（ 6.8）	59
卓球	18（ 35.3）	27（ 52.9）	6（11.8）	51
軟式野球	23（ 51.1）	18（ 40.0）	4（11.3）	45
バスケットボール	19（ 44.2）	22（ 51.2）	2（ 4.7）	43
剣道	12（ 38.7）	10（ 32.3）	9（29.0）	31
サッカー	15（ 51.7）	12（ 41.4）	2（ 6.9）	29
ソフトボール	5（ 29.4）	12（ 70.6）		17
柔道	6（ 35.3）	9（ 52.9）	2（11.8）	17
バドミントン	2（ 18.2）	7（ 63.6）	2（18.2）	11
陸上競技	6（ 75.0）	2（ 25.0）		8
水泳		3（ 60.0）	2（40.0）	5
弓道		4（100.0）		4
体操競技	1（ 33.3）	2（ 66.7）		3
新体操	1（ 33.3）	2（ 66.7）		3
テニス	1（100.0）			1
相撲		1（100.0）		1
計	153（ 39.5）	195（ 50.4）	39（10.1）	387

2．競技経験種目の一致群，不一致群，競技経験なし群の管理行動の比較

指導しているスポーツ種目の競技経験を有する顧問（A 群），異なる種目の競技経験を有する顧問（B 群），競技経験のない顧問(C 群)の管理行動の各測定項目に対する回答を多重比較検定した結果，表 2 に示した通り，14項目で 5 %水準以上の有意差が認められた。A 群は，部員育成（2 項目）と情報管理（2 項目）について，他の 2 群に比べて積極的であり，C 群は，規律維持を除く 5 要因について，他の 2 群に比べて消極的であることが明らかとなった。

表 2．競技経験と管理行動の関連　　A：一致群，B：不一致群，C：なし群

因子	質 問 項 目	検定
部員育成	1. 部員一人ひとりの特徴や故障車の状態をよく知っている	A=B>C
	2. 部員が積極的に活動しているかどうかを把握している	A>C
	3. 試合の結果を吟味して必ず次の練習や試合の改善に役立てている	A>B>C
	4. 部員がどのようなことでミスしたり失敗したかよく知っている	A>B>C
	5. 部員の将来を考えながらどのような活動をさせればよいかいつも考えている	
	6. 部員にはいつも失敗を恐れず思いっきりプレイさせるようにしている	
情報管理	7. 部活動に必要な情報は録画したりファイルにして整理・保存している	
	8. 部活動に関係する本や雑誌をよく読んでいる	A>B=C
	9. 他校の顧問と積極的に情報交換している	A>C
	10. 研修会等に積極的に参加して情報収集している	A>C
	11. 中体連や競技団体関係者と密接に連絡を取っている	A=B>C
	12. 部活動に役立つ情報（ビデオや雑誌）を部員に見せることがしばしばある	A>B=C
環境形成	13. 体格・体力・技能面に優れている新入生を熱心に勧誘している	A>C
	14. 部活動に必要な予算を得るために後援会・保護者会等に積極的に働きかけている	
	15. 有能な人材が得られるように小学校やスポーツ少年団関係者によく働きかけている	
	16. 地域の公共スポーツ施設も積極的に練習の場所として利用している	B>C
	17. 部員の健康管理のために専門医と定期的に連絡を取り合っている	
規律維持	18. 部員にはいつも休む理由を言わせている	
	19. 部員が早退や遅刻をした時はいつもその理由を確認している	
	20. 部員には施設・設備を大切にするよういつも注意を与えている	
	21. 部員には挨拶をきちんとさせている	
	22. 部員には学校規則を遵守するよういつも注意を与えている	
目標管理	23. 部のミーティングで皆が発言できるような雰囲気を作っている	
	24. いつもそれぞれの部員の個性を伸ばすことを考えた活動をしている	
	25. 部員にはいつも課題を見つけ自主練習するよう促している	
	26. 明確で具体的な部全体の目標をいつも設定している	A=B>C
	27. 長期的な展望をもって部全体の目標と個人の目標を設定するようにしている	A=B>C
変革主導	28. 全校的な部活動の問題について職員会議等で改善策を進んで提案したことがある	
	29. 顧問会議などでは自分の意見や考えにそって話が進むことがしばしばある	
	30. 部活動についての自分の意見や考えを積極的に体育主任や管理職に言っている	A=B>C

3．競技経験年数と管理行動の関連性

管理行動への影響要因を統制するために，指導種目と同じスポーツ競技経験を有する153名の顧問を対象として，競技経験年数と管理行動の関連性を分析した結果，表 3 に示した通り，部員育成（6 項目），情報管理（3 項目），規律維持（2 項目），目標管理（2 項目），変革主導（1 項目）において，5 %水準以上の有意差が認められた。その特徴は，競技経験年数との比例関係ではなく，3 年未満の競技経験しか持たない顧問に比べて，10 年以上の競技経験を持つ顧問は有意に積極的であるという差異を示すものであった。

表 3．競技経験年数と管理行動の関連　A:10年以上, B: 6 年～10年未満, C: 3 年～ 6 年未満, D: 3 年未満

因子	質 問 項 目	検定
部員育成	1. 部員一人ひとりの特徴や故障車の状態をよく知っている	A=C>B>D
	2. 部員が積極的に活動しているかどうかを把握している	A>D
	3. 試合の結果を吟味して必ず次の練習や試合の改善に役立てている	A>D

	4. 部員がどのようなことでミスしたり失敗したかよく知っている	A>D
	5. 部員の将来を考えながらどのような活動をさせればよいかいつも考えている	A>D
	6. 部員にはいつも失敗を恐れず思いっきりプレイさせるようにしている	A=B=C>D
情報管理	7. 部活動に必要な情報は録画したりファイルにして整理・保存している	
	8. 部活動に関係する本や雑誌をよく読んでいる	C>D
	9. 他校の顧問と積極的に情報交換している	
	10. 研修会等に積極的に参加して情報収集している	A>B
	11. 中体連や競技団体関係者と密接に連絡を取っている	
	12. 部活動に役立つ情報（ビデオや雑誌）を部員に見せることがしばしばある	A>D
環境形成	13. 体格・体力・技能面に優れている新入生を熱心に勧誘している	
	14. 部活動に必要な予算を得るために後援会・保護者会等に積極的に働きかけている	
	15. 有能な人材が得られるように小学校やスポーツ少年団関係者によく働きかけている	
	16. 地域の公共スポーツ施設も積極的に練習の場所として利用している	
	17. 部員の健康管理のために専門医と定期的に連絡を取り合っている	
規律維持	18. 部員にはいつも休む理由を言わせている	A>D
	19. 部員が早退や遅刻をした時はいつもその理由を確認している	
	20. 部員には施設・設備を大切にするよういつも注意を与えている	
	21. 部員には挨拶をきちんとさせている	
	22. 部員には学校規則を遵守するよういつも注意を与えている	A>D
目標管理	23. 部のミーティングで皆が発言できるような雰囲気を作っている	A=B=C>D
	24. いつもそれぞれの部員の個性を伸ばすことを考えた活動をしている	
	25. 部員にはいつも課題を見つけ自主練習するよう促している	A=B=C>D
	26. 明確で具体的な部全体の目標をいつも設定している	
	27. 長期的な展望をもって部全体の目標と個人の目標を設定するようにしている	
変革主導	28. 全校的な部活動の問題について職員会議等で改善策を進んで提案したことがある	
	29. 顧問会議などでは自分の意見や考えにそって話が進むことがしばしばある	C>D
	30. 部活動についての自分の意見や考えを積極的に体育主任や管理職に言っている	A>D

4．競技レベルと管理行動の関連性

分析のステップ３として，管理行動への影響要因をさらに統制するために，指導種目を３年以上競技した経験を有する121名の顧問を対象として，競技レベルと管理行動の関連性を分析した結果，表４に示した通り，部員育成（５項目），情報管理（５項目），規律維持（４項目），目標管理（３項目），変革主導（１項目）において，５％水準以上の有意差が認められた。その特徴は，全国・ブロック大会の出場経験のある顧問は，県・市町村レベルの顧問に比べて有意に積極的であるという差異を示すものであった。

全国・ブロック大会への出場経験がある顧問は，その競技に対する強い情熱と，競技力を高めるための経験知を豊富に持っており，それぞれの競技団体の強化部長などの要職を務めていることも推察され，それらの要因によって，他の顧問よりも積極的な管理行動を行っているのではないかと考える。

表４．競技レベルと管理行動の関連　　A：全国・ブロック，B：県，C：市町村

因子	質 問 項 目	検定
部員育成	1. 部員一人ひとりの特徴や故障車の状態をよく知っている	
	2. 部員が積極的に活動しているかどうかを把握している	A>C
	3. 試合の結果を吟味して必ず次の練習や試合の改善に役立てている	A>C
	4. 部員がどのようなことでミスしたり失敗したかよく知っている	A>C
	5. 部員の将来を考えながらどのような活動をさせればよいかいつも考えている	A>B=C
	6. 部員にはいつも失敗を恐れず思いっきりプレイさせるようにしている	A>B=C
情報管理	7. 部活動に必要な情報は録画したりファイルにして整理・保存している	A>C
	8. 部活動に関係する本や雑誌をよく読んでいる	
	9. 他校の顧問と積極的に情報交換している	A>B=C
	10. 研修会等に積極的に参加して情報収集している	A>B=C
	11. 中体連や競技団体関係者と密接に連絡を取っている	A>C
	12. 部活動に役立つ情報（ビデオや雑誌）を部員に見せることがしばしばある	A>C

環境形成	13. 体格・体力・技能面に優れている新入生を熱心に勧誘している 14. 部活動に必要な予算を得るために後援会・保護者会等に積極的に働きかけている 15. 有能な人材が得られるように小学校やスポーツ少年団関係者によく働きかけている 16. 地域の公共スポーツ施設も積極的に練習の場所として利用している 17. 部員の健康管理のために専門医と定期的に連絡を取り合っている	
規律維持	18. 部員にはいつも休む理由を言わせている 19. 部員が早退や遅刻をした時はいつもその理由を確認している 20. 部員には施設・設備を大切にするようにいつも注意を与えている 21. 部員には挨拶をきちんとさせている 22. 部員には学校規則を遵守するようにいつも注意を与えている	A>C A>C A>C A>C
目標管理	23. 部のミーティングで皆が発言できるような雰囲気を作っている 24. いつもそれぞれの部員の個性を伸ばすことを考えた活動をしている 25. 部員にはいつも課題を見つけ自主練習するよう促している 26. 明確で具体的な部全体の目標をいつも設定している 27. 長期的な展望をもって部全体の目標と個人の目標を設定するようにしている	 A>B=C A>C A>C
変革主導	28. 全校的な部活動の問題について職員会議等で改善策を進んで提案したことがある 29. 顧問会議などでは自分の意見や考えにそって話が進むことがしばしばある 30. 部活動についての自分の意見や考えを積極的に体育主任や管理職に言っている	 A>B=C

5．顧問の競技経験と運動部の競技成績の関連性

最後に，顧問の管理行動が競技成績の向上に結びついているのかどうかについて検討した。表5は指導種目と競技経験種目が一致している153名の顧問が指導する運動部の現在の競技レベルと顧問のプレイヤー時代の競技レベルをクロスした表である。県大会以下の出場経験しかない顧問が担当している部で，ブロック大会レベル以上の競技成績を残している部は，わずかに3.8%であるのに対して，ブロック大会以上の出場経験のある顧問が担当している部では，37.2%と約10倍になっている。χ二乗検定の結果，この2項目間には0.1%水準の関連性があることが認められた。すなわち，ブロック大会以上の出場経験を有する顧問は，積極的な管理行動を実施しており，その結果，県大会以下の出場経験しかない顧問よりも高い競技成績を挙げていると言える。

表5．指導種目の競技経験を有する顧問の競技レベルと競技成績の関連

顧問の競技レベル	運動部の競技レベル					
	市町村		県		全国・ブロック	
	f	%	f	%	f	%
全国・ブロック	16	*37.2*	11	*25.6*	16	*37.2*
県・市町村	45	*57.7*	30	*38.5*	3	*3.8*

$\chi_0^2=23.42$　$p<.001$

Ⅳ　総　括

本研究は，中学校の運動部顧問の管理行動に関して，1）種目に関わらずに，指導しているスポーツ種目の競技経験の有無が管理行動の規定要因となる，2）競技経験年数と競技レベルは，管理行動の規定要因となる，という仮説のもとで，387名から得られた質問紙調査票のデータ分析を行った。その結果，以下の知見を得ることができた。

1）指導種目の競技経験を有する顧問が4割，指導種目と異なる種目の競技経験を有する顧問が5割，競技経験のない顧問が1割であり，ほとんどの顧問が競技経験を有しているが，その競技と指導している競技が一致している顧問が少ない。

2）指導種目と競技経験が一致している顧問は，部員育成（2項目）と情報管理（2項目）について，一致していない顧問と競技経験のない顧問に比べて積極的であり，競技経験のない顧問は，規律維持を除く5要因につ

いて，他の２群に比べて消極的である。
３）指導種目と競技経験が一致している顧問の競技経験年数と管理行動は，比例関係にあるのではなく，10年以上の競技経験を持つ顧問の管理行動（積極的）と３年未満の競技経験しかない顧問の管理行動（消極的）との間に有意な差異がある。
４）指導種目と同じ競技経験（３年以上）をもつ顧問では，全国・ブロック大会の出場経験のある顧問の方が，県大会以下の出場経験しかない顧問より有意に積極的な管理行動を実施している。
５）指導種目と競技経験が一致している顧問が指導している運動部では，全国・ブロック大会の出場経験のある顧問の方が，県大会以下の出場経験しかない顧問より高い競技成績を挙げている。

これまで，筆者らは，中学校の運動部顧問の管理行動について，継続して研究してきた。その理由は，大学や高校の運動部と比較して，中学生は，運動技能や社会的態度の面での成熟度が低く，運動部の成果（教育的効果と競技成績）に対する顧問の管理行動の影響が大きいと考えたからである。それらの研究の結果，顧問の管理行動と運動部の成果との強い関係性を明らかにし，管理行動は，顧問の担当教科，教職経験年数，競技経験年数，競技レベルなどによって規定されることも明示した。今後は，これらの研究成果をふまえて，小学生のスポーツクラブ，高校・大学の運動部に研究対象を広げていきたいと考えている。

文　献

１）金井壽宏,「管理者行動論の展開－リーダーシップ論の新次元－」，国民経済雑誌，147－１，1983，56－102.
２）田尾雅夫，行政サービスの組織と管理，木鐸社，1990，143－155.
３）武隈晃・三井島智子・岡田猛・小松恵理子,「体育組織における管理者行動論の展開」，鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編，40，1998，67－77.
４）清水紀之,「体育経営体における管理行動に関する研究」，体育学研究，35－１，1990，41－52.
５）藤田雅文・松原文和,「運動部顧問の管理行動に関する研究－中学校サッカー部の顧問を対象として－」，体育・スポーツ経営学研究，９－１，1992，１－12.
６）武隈晃,「体育経営組織における管理者行動の規定要因および有効性について」，体育学研究，38－５，1994，361－374.
７）清水富弘・田井村昭博・洲雅明,「競泳の競技力向上に求められる管理者行動」，体育・スポーツ経営学研究，11－１，1995，15－24.
８）武隈晃,「管理者行動論によるスポーツ組織の検討」，体育学研究，40－４，1995，234－247.
９）藤田雅文,「中学校運動部顧問の管理行動に関する研究－女子バスケットボール部の顧問を対象として－」鳴門教育大学研究紀要生活・健康編，15，2000，19－26.
10）藤田雅文・松村泰行,「小学校体育主任の管理行動の構造と有効性に関する研究」，体育・スポーツ経営学研究，16－１，2001，59－69.
11）國田恵理・藤田雅文,「運動部活動顧問の管理行動に関する研究－中学校ソフトテニス部顧問を対象として－」，日本体育・スポーツ経営学会第31回大会号，2008，86－87.
12）香川県教育委員会，香川の学校体育，2009，42.

A Study on Managerial Behavior of Athletic Club Managers in Junior High Schools

—— The Relation between Managerial Behavior and Experience of Player ——

FUJITA Masafumi* and YOSHIDA Tetsuya**

The purpose of this study was to examine the relation between the managerial behavior and the experience of player of athletic club managers in junior high schools. Managerial behavior were defined by six kinds of dimensions; bringing up club members, information management, creating environment, keeping up discipline, management by objectives, initiative of innovation. The subjects were 387 athletic club managers in junior high schools in a prefecture. The investigations were performed from May to July in 2008.

The results were summarized as follows;

1) 387 managers were coaching 17 athletic events, such as volleyball, soft tennis, table tennis, baseball (played with a hard rubber ball), basketball, Kendo (Japanese fencing), and soccer.

2) 90% of the managers had the experience of player.

3) It was 40% of the managers who had experience in player of the coached athletic events.

4) The managers who had experience in player of the coached athletic events actively took managerial behavior (bringing up club members and information management) in comparison with others.

5) The managers who had not experience in player passively took managerial behavior (except for keeping up discipline) in comparison with others.

6) In the managers who had experience in player of the coached athletic events, the managers who had experience from ten years up actively took managerial behavior (except for initiative of innovation) by comparison with the managers who had experience less than three years.

7) In the managers who had experience from three years up in player of the coached athletic events, the managers who have played at national or regional athletic competitions actively took managerial behavior (except for creating environment), and then they got good athletic results by comparison with the managers who have not played at that competitions.

*Naruto University of Education, Department of Health and Living Science (Health and Physical Education)

**Tokushima City Kokufu Junior High School